

立教大学キリスト教学研究科 公開講演会

The Reformation and the Orthodox Church: A Case Study

「宗教改革と正教会との関係に関する一事例研究」

講師：István Keul（イストヴァン・コイル）氏

（ノルウェー、ベルゲン大学文学部考古学・歴史学・文化研究・宗教学科教授）

2017年の「宗教改革」500周年に向けて、世界各地で「宗教改革」を主題とする学術的催しが多く企画され、従来の宗教改革研究がさらに推し進められると共に、これまでの研究の視座に対する批判的問い直しも行われている。「宗教改革」への着目は当然、パレスティナから西漸したキリスト教の一潮流であるローマ・カトリック教会とそこから派生してきたプロテスタント諸教会の歴史叙述においては不可欠であるが、他方、東漸していったキリスト教にとって、西方の教会で生じた改革運動はどのような意味を持っていたのであろうか。本講演は東漸したキリスト教のなかでも特に正教会を、そしてその中でも特にルーマニア正教会に着目して、西方の宗教改革と東方の正教会との関係を歴史的に考察する。

※本講演は英語で行いますが、来場者には講演原稿を配布します。ぜひお気軽にご来場ください。

2015年10月5日（月）

18時15分～20時15分

会場：立教大学池袋キャンパス 12号館地下1階 第2会議室

司会：久保田 浩（立教大学教授）

主 催： 立教大学キリスト教学研究科

問い合わせ先： 立教大学学部事務1課 03-3985-2521

◆講演者: István Keul(イストヴァン・コイル)氏

2000年にドイツ、チュービンゲン大学で博士号取得後、2007年にベルリン自由大学にて教授資格を取得。

2009年よりノルウェー科学技術大学(トロンハイム大学)考古学・宗教学科教授、2013年より現職。ヒンドゥー教におけるハヌマン崇拝の歴史的・社会学的研究を中心に、中東欧における宗教的多元化、アジアにおける新宗教等を幅広く研究対象とする。主な著作は、*Banaras Revisted: Scholarly Pilgrimages to the City of Light*, 2014(編著書)、*Early Modern Religious Communities in East Central Europe*, 2009、*Hanuman, der Gott in Affengestalt: Entwicklung und Erscheinungsformen seiner Verehrung*, 2002等。

◆池袋キャンパス案内図

